



▲総勢26名の4・5・6年生がステージへ



▲寸劇や合唱など取り入れて、わかりやすく伝えました。

かぎりなく広がる海は、みんなの先生だ

氷見市立女良小学校

学校長：桶家 栄子先生

指導教諭：山口千香子先生

発表児童：4～6年 26名

本校は氷見市の北西部に位置し、東に蛇が島を浮かべた有機海が広がり、雄大な立山連峰のパノラマを望んでいる。西の丘陵地帯には、石動山等の史跡が多く、歴史的環境にも恵まれている。地域の特色を生かし「蛇が島学習」「わかめ養殖体験」「長坂棚田学習」「交通安全学習」等が、長年行われてきている。

全校児童48人、「心ほかほか、瞳きらきら、元気もりもり」を合い言葉に、様々な活動に取り組む元気な子供たちである。



海とともに生きる

青く透き通った海。県の天然記念物に指定されている蛇が島。私たちは、この豊かな自然、女良の海からいろいろなことを学んでいます。一つ目は、蛇が島学習。二つ目は、女良地区の浜巡り。三つ目は、ワカメの養殖体験です。これらの活動を通して出会った海のすばらしさや生き物、そして人。その中から、一人一人が大切にしたいと思うことが見えてきました。女良小学校の子供たちが海とかかわり、海とともに生きる姿を発表します。

山口千香子先生より

ふるさと女良の海に進んで働きかける子供たち

豊かな自然に恵まれた女良地区。その中でも特に「海」とのかかわりは深く、子供たちはさまざまな体験を通して、たくさんのことを学んでいます。「海の生き物や植物の不思議」に目を輝かせる子供。そこで出会った人の生き方に心を揺り動かされる子供。自分たちでできることは何かを考え、実践する子供。さらには、自然の厳しさや自然を守る難しさについても考えられるようになってきました。

これからも、子供たちと感動を共有しながら、「自分の課題を見付け、ふるさとの海に進んで働きかける女良っ子」を応援していきたいと思っています。



▲25年間続く伝統的な活動「虻が島学習」



▲学校へ持ち帰り観察を続けている生き物で“世界にひとつの水族館”



▲ワカメを水そうで養殖し、成長を観察しました。



▲「浜めぐり」では海岸ごとに、砂の様子を比較研究。



▲海への感謝をこめて、虻が島や浜辺を清掃しました。



考えたこと・感じたこと

海とふれあい、海のよさを探りたい

海の活動を通して、たくさんの生き物や植物とふれあい、海のよさを見つけることができました。海の生き物はとってもきれいでおもしろいです。小さな生き物一つ一つが大きな海の中で精一杯生きているのを見てると、自分もはげまされます。そんな一つ一つの小さな命を育てている海はすごい力があるのだと思いました。

しかし、いつもきれいで豊かだと思っていた女良の海にも、たくさんのゴミがあることが分かりました。私たちは、ゴミ拾いだけでなく、自分のできることを見つけ、これからも、どんどん海とふれあっていきたいです。そして、女良の海のよさをもっと探っていきたいです。

学習テーマの設定

女良の海に学ぶ

毎日、目の前に広がる海を見ながら通学する女良小の子もたち。美しく豊かな女良の海を通して、さまざまな体験や学習を積み重ねています。



活動は、「虻が島学習」「浜めぐり」「ワカメ養殖体験」という3つのテーマにもとづいて進めました。

学習の展開

虻が島は“生き物の宝庫”

北方系と南方系の両方の生き物が見られる「虻が島」。アクアスコープを使って見たその海は、まさに“生き物の宝庫”でした。



たくさんの生き物を確認
高岡高校の泉先生の指導のもと、アオウミウシ、シロウミウシ、イボウミウシなど、さまざまなウミウシの仲間をはじめ、128種類もの生き物を確認できました。

海はいのちでいっぱい

4・5年生は「浜めぐり」で、海岸線を観察しました。いろいろな植物や貝なども見つけ、学校の水そうでも、育てながら観察を続けました。



海と生きる人との出会い
漁師さんやカメラマンの方など、海とともに生きてこられた人たちに出会い、海のすばらしさ、大切さを学びました。

大きく育て！みんなのワカメ

13年前から漁師さんを先生に「ワカメの養殖体験」にもチャレンジ。なかなかワカメが育たず、海の力のすごさを、あらためて感じました。

